

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ミアヘルサ保育園ゆらりん下目黒
施設所在地	東京都目黒区下目黒6-18-11
法人名	ミアヘルサ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【自然】虫や自然物に触れて、植物や生命の成り立ち、命の大切さを知る。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

クラス全体的に、散歩に行くと動植物の探索に夢中になる姿が見られたことから、虫や植物への関心が強いことが分かった。また、散歩で行く公園は遊べるだけでなく、季節ごとに観察や探索が楽しめる自然物が見られるため、子どもたちも意欲を持って取り組めると思い、このテーマを選んだ。

2. 活動スケジュール

細かい活動スケジュールは決まっていなかったが、主に春頃の散歩で探索を楽しめるようにした。また、アゲハチョウの幼虫の観察は5月上旬から6月中旬まで行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

春頃から、散歩先には持ち運びが可能な小さな図鑑をいくつか持っていくようにした。また、活動のために虫眼鏡も準備したため、園内では様々な場所を自由に虫眼鏡を使って観察をできるようにした。また、虫かごを用意しアゲハチョウの幼虫を育てた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

クラスの児がアゲハチョウの幼虫をクラスに持ってきた。図鑑や虫眼鏡を使って探索するだけでなく、その幼虫がさなぎを経て蝶の姿になる成長過程を観察しながら日記につけることにした。毎日、自由時間に虫眼鏡を使って自由に観察出来るようにし、日記も書けるようにした。子どもたちが書いた日記は、毎日クラスの部屋に掲示することで、最初はあまり興味を示さなかった児も関心を持ち始めていた。また、育てるだけでなく、園で育てていたカブトムシが死んでしまった際は、クラスで埋めることにした。子どもたちも、本当に動かなくなってしまったという実感から、最後まで惜しむ表情も見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

もとから探索は好きだった子どもたちだが、図鑑や虫眼鏡を使うことで、より一層興味を持ちながら楽しむ姿が見られた。これまでは、一人で探索していた児も友だちと「これ見つけようよ」と一緒に楽しんだり、「今日は動かないね」「もう少しで羽ばたきそう」と共有しながら日記を記していた。名前のつけていたため、名前を読んで可愛がる様子も見られた。保育者も一緒に観察をし、子どもの発見や驚きに共感しながら楽しめるような働きかけをした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの興味関心を寄せるものを保育の中に取り入れることが出来たとともに、観察して日記を記すことで、自分の目で見たそのままの姿を自由に表現する機会にも繋がった。虫眼鏡や図鑑なども使うことで、より一層子どもたちの興味を引き出し、新しい発見や面白さに子どもたち自身で気付くことも出来たと思う。生命については、言葉で説明することは難しいが、生き物を実際に育ててみたり、死んでしまった生き物を埋めてあげた経験を通して、育つ難しさ、嬉しさ、大変さなどを知る経験ができた。